

Energy-Next

ニュースレター

海外機関との連携

Qualifying Examination(QE)を通過した先進理工学専攻3年生の「インターンシップ(企業にて3ヶ月間実施)」や「研究機関実習(海外大学・研究機関に3ヶ月出向き、共同研究を推進)」などの科目履修が始まりました。指導教員と相談の上、学生自らが滞在先を選び、手続きを進めます。研修・実習先には、協定を締結している機関に加え、海外企業も積極的に開拓しています。

〈連携先:企業〉Bridgestone Americas、P&G、Siemens他

〈連携先:大学〉Monash Univ.、Stanford Univ.、Univ. of Michigan、UMass Amherst、Univ. of Bonn他

これまでに、Bridgestone Americasに1名、P&Gに2名のインターンシップ生を、Monash Univ.に1名、



▲モナシュ大との覚書に基づく連携活動(クレイトンキャンパスにて)

▼マサチューセッツ大学アムハーストとの連携に関する覚書締結



Univ. of Bonnに1名、シンガポール国立大学に1名の研究機関実習生を送り出しています。学内にいるだけでは学び得ない考え方・方法論や企業における研究開発の現場、ロールモデル、人的ネットワークなど、多くを得て帰国しています。定期的な学生からの報告や受入先からの評価シートなどにより、研究室を離れている間の学生の活動を把握しています。

また、この9月には、平成26年度スーパーグローバル大学等事業に本学の提案が採択されました。世界に向けて大学を開放し、ダイナミックな頭脳の国際的流動の中で、教育研究の質と量の飛躍的向上を目指す「Waseda Ocean構想」を掲げています。世界ランキングにおいて本学がカバーする25の研究分野のうち18分野で100位以内、10年で10万人のグローバルリーダー輩出を目指しており、先行する6モデルの中に、本プログラムと親和性の高い「ナノ・エネルギー材料」を設定しています。本プログラムですでに連携している大学に加え、Univ. of Washington等に連携範囲を広げながら、よりグローバルな研究教育環境を博士人材の育成に活用していきます。